Title	「特集」に寄せて
Sub Title	
Author	萩原, 滋(Hagiwara, Shigeru)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2006
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.56 (2006. 3) ,p.37- 38
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20060300-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「特集」に寄せて

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
邦文紀要『メディア・コミュニケーション』編集担当
『外国関連報道が構築する世界像』プロジェクト代表
萩原 滋

直接的な接触経験の乏しい諸外国に関する認識や態度は、どのようにして形成、維持あるいは変容していくのであろうか。歴史や地理など学校での社会科教育を通じて培われる知識が私たちの世界像の基盤をなすとしても、時々刻々と変化する世界像の動態を把握するうえでは、新聞やテレビなどの外国関連報道が中心的な役割を果たしているのは間違いない。しかし「国際的なニュースの流れ (international news flow)」に関する研究は、そこで取り上げられる国や地域に大きな「偏り (imbalance)」があり、報道内容にもある種の「歪み (distortion)」があることを繰り返し明らかにしてきた。映像を中心とするテレビ報道は、諸外国に関する直截的なイメージを喚起するうえできわめて有効ではあるが、新聞に比べると項目数をはるかに少なく、それだけに各種バイアスの介入する余地もまた大きいと言わざるを得ない。

私たちは、日本の地上波テレビのニュース番組における外国関連報道を対象として、日本人の対外認識や対外態度との関連性を視野に入れつつ、そこで構築される世

界像をいくつもの異なる視点から検討することを目的に共同研究プロジェクトを開始した。まずは21世紀COEプログラム「多文化世界における市民意識の動態」のために録画した数多くのニュース番組の中からNHK「ニュース10」、TBS「筑紫哲也NEWS23」、テレビ朝日 (ANB)「ニュースステーション」(2004年4月以降は「報道ステーション」)の3番組を選んで放送内容の流れを一覧できるような形で構成表を作成し、それに基づいて各自がそれぞれに独自の枠組みで内容分析を実施し、その成果を6篇の論文にまとめて本号の特集とした。

ここでは2003年11月から2004年8月までの10ヶ月にわたるニュースを素材としているが、この間の日本のテレビにおける外国関連報道の特質、主要な争点や対象国・地域の分布などの全体的傾向について最初に萩原論文が検討を加えている。実際、ここではイラク戦争に次いで、拉致問題を中心とする日朝関係の話題が大きな比重を占めることが明らかにされているのだが、日韓両国のテレビ報道では全く異なる北朝鮮像が構築されていることを李論文が具体的に描

出している。国際ニュースの中心をなす政治や経済といったハードニュースに比べると、いかに異なる世界像がソフトニュースで伝達されているかを山本論文が考察、この間の主要な争点のひとつとなった鳥インフルエンザ報道を取り上げた大坪論文では、そこで使用されたアジア諸国の映像の特徴を吟味している。また福田論文では、国際テロ報道という枠組みでスペイン列車爆破事故に関するニュースの内容を映像やテロップを含めて詳細に分析、金山論文ではニュースの中で使われる「人の語り(サウンドバイト)」に焦点を当て、そうした形式的側面から外国関連報道の特質についての論考を行っている。

日本ではテレビ番組のアーカイブを利用するのが困難なために、テレビニュースの内容分析は、せいぜい1週間から1ヶ月程度の期間の番組を対象とするのが通常である。その点では10ヶ月という長

期にわたるテレビニュースの内容分析は、先例のない試みと言えるが、それでもここで描き出された世界像、諸外国のイメージは、いずれもスナップショットにすぎないのである。本プロジェクトでは、今後も対象となる国・地域、争点、枠組みなどをさらに拡大して外国関連報道が構築する世界像のさまざまなスナップショットを撮り続けていくことになるが、その中には対象期間に特殊な一時的側面とある程度の持続性を有する側面の両方が含まれており、それを見極めていくことが今後の研究課題となろう。

本プロジェクトは、慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所「研究・教育基金」並びに「NTTドコモ寄付金」(平成17年度)による研究補助、放送文化基金(平成16年度)による助成・援助金により実現したものである。関係者各位に深甚の謝意を表したい。